

# 作られた「物語」を超えて

～日常の作られた「物語」について自分の考えをもとう～

本校の育成する資質・能力

知識・技能

思考力・判断力・表現力

主体性・協働性

- 1 日時 令和2年12月2日(火) 15:00～15:50
- 2 学年・学級 3年C組(男子15名 女子16名 計31名)
- 3 場所 3年C組教室
- 4 単元について

## (1) 単元観

本単元は、中学校学習指導要領(平成29年告示)の第3学年、[知識及び技能](2)情報の扱い方に関する事項ア、[思考力・判断力・表現力等]C読むこと(1)エに基づいて設定するものである。

### 【知識及び技能】

(2)話や文章に含まれている情報の扱い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 具体と抽象など情報と情報の関係について理解を深めること。

### 【思考力・判断力・表現力等】

C 読むこと

(1)読むことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

エ 文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつこと。

### 【学びに向かう力、人間性等】

言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。

本単元では、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

「ア 具体と抽象など情報と情報の関係について理解を深めること。」とは、第2学年の「ア 意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解すること。」を受けて、「具体と抽象という概念を理解するとともに、具体的な事例を抽象化してまとめたり、抽象的な概念について具体的な事例で説明したりすることができるようにすること」捉えている。また、「エ 文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつこと。」とは、第2学年の「オ 文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結びつけ、自分の考えを広げたり深めたりすること。」を受けて、本や文章を読んで考えを広げたり深めたりし、人間、社会、自然などについて自分の考えをもつことを示している。「人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつ」とは、「様々な文章を読むことを通して、そこに表れているものの見方や考え方から、人間、社会、自然などについて思いを巡らせ、自分の考えをもつこと」と捉えている。

これらの力の育成にあたり、本単元の価値は次のとおりである。

1つ目は、具体例の分かりやすさである。本単元は『作られた「物語」』という抽象的な概念を「ゴリラのドラミング」という誰もがイメージできる具体例で説明をしている。そのため、具体例がある意図を考えることを通して筆者の考えを捉えることで、具体と抽象の関係を捉えることができる。

2つ目は、日常との関連しやすさである。本単元は、ゴリラの事例から人間の文化や社会全体の事

例に発展させ、最後に自分の考えをまとめている。そのため、具体例を手がかりにしながら、筆者のものの見方・考え方を捉えることができる。「日常にある作られた『物語』」に関連する複数の資料を読み比べて考えることで、人間、社会、自然などについて、広い視野を持って自分の考えをもつことができる。

以上のことから、本教材によりねらいを達成するのに適した単元を構成できると考える。

## (2) 生徒観（調査結果等から見る課題）

9月に実施した全国学力・学習状況調査によると、「読むこと」の領域における通過率が66.1%であった。「文章の中心的な部分と付加的な部分とを読み分け、内容を捉える」ことを意図した『固定観念を異なる視点から見ること』について、本文中に示されている具体例として適切なものを選択する問題における通過率は75.9%であった。誤答分析によると、「固定観念を異なる視点から見ること」について、本文中に示されている具体例と結びつけて捉えることができていないことが分かる。また、「具体と抽象など情報と情報の関係について理解を深めること」において、「具体」、「抽象」という概念が全体的に薄い。特に「抽象」という言葉の概念を理解できていない生徒が多い。これまでの学習の中で、「具体と抽象の関係」に注目させる活動をしていないことが要因である。

「文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつこと」において、「読むこと」の学習で、「俳句」の単元で、複数の解説や筆者についての説明の文章をもとに、俳句の解釈をすることを通して、「1つの単元の中で、様々な文章を読んで自分の考えをもつ」活動を行った。「文章中に表れている筆者のものの見方考え方を結びつけて自分の考えをもつこと」においては「読むこと」の学習で、「論語」の単元で『論語』の孔子の考えと自分の生活をつなげて考えを書く学習をした。その際、孔子の考えに対する適切な例を挙げて書くことができなかつた生徒が3割程度いた。要因として、「書き方が分からない」、「孔子の考えが理解できていない」「具体例の妥当さが吟味できない」ことが考えられる。「文章中に表れている筆者のものの見方・考え方と自分の考えを比べたり、他者の考え方と比べたりすることによって自分の考えを広げたり深めたりする」ことについては、「書いた内容の交流」でなるほどと思ったことを取り入れるといった活動にとどまっている。

これらから、本単元における生徒の課題は次の2点と考えられる。

1つめは、「抽象・具体の概念を理解し、抽象・具体に注目して読むこと」、2つ目は「筆者の考えと結びつけて自分の考えを持つこと」である。

## (3) 指導観（指導改善のポイント）

本授業の単元計画は、課題を自分事として考えさせるために、事前に予習課題として取り寄せた生徒の初読の感想及び考えてみたい課題をもとに作成している。

指導にあたっては、1つ目の課題「抽象と具体の関係を捉えること」については、まず、「抽象」、「具体」の概念を確認する。『作られた「物語」』の例としてあげられているゴリラのドラミングについてまとめさせ、その意図を考えることで、筆者の主張を捉えさせる。その上で、ゴリラの具体例と筆者の主張の関連を説明させたい。その際、「抽象」、「具体」のプレートをつくり、黒板に貼ることで可視化し、「抽象と具体の関係」を意識させたい。思考にあたっては、ワークシートや一人1枚のホワイトボードを準備する。思考整理の手段も文章、図式化、思考ツールと複数の手段の中から自分で選択をさせたい。その上で、交流を通し、自分の考えをノートにまとめさせたい。

2つ目の課題「筆者の考えと自分の考えを結びつけて考えること」については、まずは抽象と具体の関係に注目させる活動を通して、筆者の考えを理解させる。その上で、選択した課題を解決させる

ために複数の資料を生徒自身に準備させたい。それらの資料を読み比べながら、筆者の考えの共通点を探したり、それらの資料を読んで考えたことを書かせたりする活動の中で、自分の考えを持たせたい。その際、考える視点や書き方モデルを提示して、学習を支援する。

単元を貫く問いとして、『日常の作られた「物語」について自分の考えをもとう』を設定した。考えをもつために、『日常の作られた「物語」を超えるために心がけること、できること』、『なぜ人は作られた「物語」を超えることができないのか』、『なぜ人は作られた「物語」を作るのか』、『なぜ人は作られた「物語」に影響されてしまうのか』の4つの課題を提示し、その中から生徒に選択をさせたい。なお、これらの課題は、考える必然性を持たせるために、生徒が考えてみたい課題としてあげていたものから作成している。

## 単元の目標

- (1) 具体と抽象など情報と情報の関係について理解を深めることができる〔知識及び技能〕(2) ア  
 (2) 文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる〔思考力・判断力・表現力等〕C読むこと(1)エ  
 (3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。〔学びに向かう力、人間性等〕

## 本校で育成を目指す資質・能力と評価規準との関わり

資質・能力	本校が育成を目指す資質・能力	本校が育成を目指す資質・能力を身に付けさせるための手立て
知識・技能	具体と抽象など情報と情報の関係を捉え、内容理解に役立てる力	必要な情報を選択し、整理させることを意図として、中心的な部分と付加的な部分を読み分け、筆者の主張と読み手の理解を補うために示された具体例を捉えさせる。
思考力・判断力・表現力	文章を読んで考えを広げたり深めたりして、日常生活に目を向け、人間、社会、自然などについて考えたことを自分の言葉で書く力	生徒の予習から課題や単元を貫く問いを設定し、考える必然性を持たせる。「物語」をキーワードとした課題を設定し、「物語」に着目して筆者の考えを読みとらせ、「物語」を超える必要性について考えさせる。その上で、単元に書かれている「ゴリラ」の事例から同様のことがないかと日常的な事例に目を向けさせる。「考えをもつ」にあたっては、自分の考えを書かせることで思考の整理をさせる。
主体性・協働性	これまでの学習を生かして複数の文章のそれぞれに表れているものの見方や考え方を粘り強く比較し、仲間と考えを交流し合いながら自分の考えを文章にまとめる力	生徒がそれぞれ「ゴリラ」の事例と似たようなことがないか日常生活の中から探してきたものや課題に対して必要だと思われる資料を読み比べながら、日常の中にある『作られた「物語』』に対する自分の考えを書かせる。

## 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①具体と抽象など情報と情報の関係について理解を深めている。(2)ア)	①「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ)	①これまでの学習を生かして複数の文章のそれぞれに表れているものの見方や考え方を粘り強く比較し、自分の考えを文章にまとめようとしている。

## 指導と評価の計画

次	学習内容	評価
		評価規準（評価方法）
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「桃太郎」の話と、朝日新聞に掲載された鬼目線のポスターを紹介し、世の中にある「ズレ」について認識を持つ。</li> <li>○予習課題の「初読の感想」「単元で考えてみたいこと」を簡単に紹介し、それをもとに作成した単元構成と、単元を貫く問い（4つの中から選択する）を確認し、単元の見通しを持つ。</li> <li>○通読する。</li> <li>○序論、本論、結論に分け、理由を説明することで大まかな流れをつかむ。</li> </ul>	
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○筆者が物語に「 」をつけた理由を考える。</li> <li>○筆者の考える『作られた「物語」』とは何かを確認する。</li> <li>○『作られた「物語」』として挙げているもの（ゴリラの具体例）についてまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・「物語」が作られたきっかけ</li> <li>・作られた「物語」・物語が作られた結果</li> </ul> </li> </ul>	
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○筆者がゴリラの具体例を用いた意図を説明する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・具体例があることのメリット</li> <li>・具体例で何を説明しようとしたこと</li> <li>・筆者が具体例を用いた意図</li> </ul> </li> <li>○筆者の考えを捉え、具体例との関連を説明する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・筆者の考え</li> <li>・具体例との関連の説明</li> </ul> </li> </ul>	具体と抽象など情報と情報の関係について理解を深めている。[知識・技能] ① (WB・ノート・振り返り)
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>○『作られた「物語」』を超えること、超えた先にあるものを読み取る。</li> <li>○上記を根拠とし、筆者のものの見方・考えを捉えて書く。</li> </ul>	
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>○集めてきた複数の資料を読み比べる。</li> <li>○それぞれの資料について、書かれている内容から筆者のものの見方・考え方を捉え、教科書の筆者の考えとの共通点をまとめる。</li> <li>○資料から考えたことを書く。</li> </ul>	「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。 [思考力・判断力・表現力] ① (ワークシート・振り返り)
(本時) 6	<ul style="list-style-type: none"> <li>○日常の中の『作られた「物語」』について、選択した課題を1つ選ぶ。</li> <li>○複数の資料をもとに自分の考えを書く。</li> </ul>	これまでの学習を生かして複数の文章のそれぞれに表れているものの見方や考え方を粘り強く比較し、自分の考えを文章にまとめようとしている。
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>○小集団で「自分の考えが伝わるか」を視点に読み比べ、交流する。</li> <li>○書いた内容を見直し、加筆修正する。</li> <li>○小集団の中で書いたことを伝え合う。</li> <li>○単元のまとめと振り返りを行う。</li> </ul>	[主体的に学習に取り組む態度] ① (ワークシート・振り返り)

## 本時の学習

(1) 本時の目標

「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C (1) エ)

(2) 観点別評価規準

B	A	C
人間、社会、自然などについて、複数の資料を読み比べ、それぞれの筆者のものの見方・考え方を比較し、自分の考えに結びつけながら、自分の考えを書いている。	人間、社会、自然などについて、複数の資料を読み比べ、それぞれの筆者のものの見方・考え方を比較し、自分の考えに結びつけながら、学習前と今現在の自分の考えの変化を書くなど、具体的に自分の考えを書いている。	人間、社会、自然などについて、複数の資料を読み比べ、作られた「物語」について考えたことを書いている。

(3) 準備物 教科書、パソコン、プロジェクタ、スクリーン、模造紙(生徒の学習をまとめたもの) ホワイトボード、ホワイトボードペン

(4) 学習の展開

	学習活動	◇指導上の留意事項 ◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手だて	評価規準 (評価方法)
導 入	①単元のゴールの確認をし、前時の復習をする。 ・複数の資料を読んだこと ・考えを書いたこと など ②課題4つを提示する。	◆PPに写真等を示し、学習の復習をする。	
	課題1 日常の作られた「物語」を超えるために心がけること、できること 課題2 なぜ人は作られた「物語」を超えることができないのか 課題3 なぜ人は作られた「物語」を作るのか 課題4 なぜ人は作られた「物語」に影響されてしまうのか		
	③めあての提示をする。		
本時のめあて 課題を選択し、作られた「物語」について、筆者の考えや資料を踏まえて自分の考えを書くことができる。			
展 開 ①	④前時までの学習を用いて、書く内容の整理をする。	◇考えを書くために必要な資料とそれを読み取ったものを準備させる。 ◇一人1枚ホワイトボードを渡し、思考の整理をさせる。(箇条書き・図式化・思考ツールなど) ◆書く時に取り入れたらよい内容を示す。 ◆どのような整理の仕方があるかを示す。	
展 開 ②	⑤ホワイトボードに書いたことをもとに、考えたことをノートに書く。	◆必要に応じて、書き出しや書く順番、書き方モデルを示すなどの支援を行う。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">           【例：課題1】            ・筆者の考え            ・選んだ資料の考え            (・資料の共通点や相違点)            ・それらに対する自分の考え            ・世の中の作られた「物語」            ・具体的に心がけていきたいこと         </div>	[思考・判断・表現] ① ノート ・複数の資料から考えた作られた「物語」に関する記述 ※振り返りの記述も 合わせて評価する

振 り 返 り	<p>⑧まとめを提示する。 ※文章の完成が次時のため、思考整理・考えを書くという活動において簡単に学習を振り返る。</p> <p>⑨振り返りを記入する。</p>	<p>◇ノートの下の方に書かせる。 ◇振り返りの視点を示す。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>[知識・技能] 考えを整理する時に使ったこと [思考力・判断力・表現力] 資料を読み比べ、比較し考えたこと [主体性・協働性] 粘り強く取り組んだこと</p> </div>	<p>[主体的に取り組む態度] ① <u>振り返り</u> ※ノートの記述も合わせて評価する。</p>
	<p>○生徒の振り返り例</p> <p>[知識・技能] 自分の考えを書くためには、何を書くかを整理すると書きやすいことが分かった。また、これまで学習した内容をつなげて書けばいいということも分かった。筆者の考えと自分の考えをつなぐことができた。</p> <p>[思考力・判断力・表現力] 作られた「物語」のために心がけたいことについて書くことができた。筆者の考えや複数の資料をもとに、作られた「物語」が及ぼす影響は私たちの身近にあるし、気づかないうちに「物語」をつくっているかもしれないと思った。私は「物語」を超えるために、情報をすぐに信じずによく知ることを心がけたい。</p> <p>[主体性・協働性] たくさんの資料に書かれている考え方について粘り強く比較をすることができた。比較をすることで考えがより分かり、それらと自分の考えを結びつけて書くことができた。</p>		